

東日本大震災救援ボランティア日誌

(京都労山第4次支援隊参加)

林 謙佐郎

6月10日(金)

4時30分に起床。5日間留守になるので、畑を見回り少し手入れをして朝食を摂る。小型ザックに身の回り品を詰め、中村会長宅へ。洛中労山の星野さんが車で到着、前日預けておいた荷物を積み込み6時半に出発。京都駅八条口でWAO 亀岡の谷村さん、松岡さん、木村さんが同乗し、京都労山幹部の見送りを受けて6名で少し窮屈だが、7時



に出発。京都東ICから名神、北陸道、磐越道、東北道、仙台南部道路、仙台東部道路、三陸自動車道を経て、途中5回休憩の後18時に石巻着。イオン石巻店で買い物をして(スーパーは通常営業で商品は何でも手に入る)19時30分に水沼東部構造改善センターに到着。石巻労山前会長の岡さん夫妻の出迎えを受ける。買って来た夕食で食事をし、明日からの打ち合わせをした後10時に寝袋に入り就寝。

6月11日(土)

5時起床。荷物を整理して朝食を摂る。7時30分に岡さんの軽トラの先導で、石巻市渡波のハウス栽培農家、亀山さん宅到着。我々京都労山6名と群馬太田ハイキングクラブ10名で約1200㎡と1100㎡のビニールハウスを、東京大田山の会20名(平均年齢30代)と宮城労山4名で2000㎡のビニールハウスを担当し、8時から作業開始。作業内容はハウス内の雑物や枯れ草を取り除き、刃付





鍬や三角ホーで2～3cmの堆積した塩分を含むヘドロを掘り起こし、平スコップで一輪車に積み込み、ヘドロ置き場に捨てる作業。足腰に堪える作業で、休憩を取りながら山歩きの要領で。

塩分を含んだヘドロと硫化水素が反応して、硫酸

酸性になるため、完全にヘドロ除去をしないとダメと説明をうける。ハウス周辺は未だ車や雑物が散乱し、ヘドロと海水が滞留した水田で全く手付かずの状態。水田は国の負担で塩分除去をし、再成するらしいが、畑地やハウスの農地は対象外で個人負担でやるしかないとのこと。今回は元農協職員の岡さんの仲介で、このボランティア活動がスタート。

昼食はカップメン他で済まし、午後も作業継続。14時46分に震災3ヶ月目のサイレンが鳴り渡り、作業の手を止め全員で黙祷する。ふたごの湯で汗を流す。スーパーで買い物をして、改善センターに戻る。



19時過ぎ、多目的ホールでテーブルを囲み4グループの交流会がスタート。買って来た夕食の惣菜や岡さんの奥さん用意のカレーライスを頂く。石巻労山会員被災者の当日の状況説明や石巻沿岸部の震災DVDの上映があり、震災と大津波が日常生活を完全に破壊したことを思い知る。9時過ぎ、お先に就寝。

6月12日（日）

一緒に改善センターに宿泊した東京大田山の会と宮城労山は6時過ぎに作業場へ出発。我々京都労山と群馬太田ハイキングクラブは朝食を終え、7時30分に改善センターを出発。作業場到着後、8時から昨日の続きの作業開始。ますます下半身に負

担がかり、動作が鈍くなる。昼前に東京大田山の会と宮城労山メンバーは作業を終え、帰路に。我々は12時前に昼食の大休止、群馬太田ハイキングクラブも13時に作業を終え、帰路に着く。13時から我々6名だけで作業を継続。午前中よりポンコツのキャタピラ付の小型運搬車が使用できるようになり少しは運搬作業が楽になる。14時30分に作業を終了、後片付けし、15時にハウスを後にする。その後、牡鹿半島を巡り、女川、雄勝沿岸、金華山国定公園近くまで被災地をめぐる。



リアス式海岸の入り江に点在する小さな漁村は壊滅状態で、全く復旧の手が付いていない。この痛ましい光景を目にして、恐怖を感じると共に津波の破壊力の大きさに驚く。帰路、ふたごの湯で汗を流し、夕食をスーパーで買って改善センターに戻る。食事を済まして、グッタリ。8時就寝。

6月13日(月)

4時に起床。1時間ほど改善センター周辺を散策。よく見ると家々の屋根瓦が落ちたり、納屋が潰れていたり、ここまで津波は来ないものの、地震が大きかったことが窺える。5時から朝食を摂り、荷物を整理して6時に改善センターを出発し、亀山さんのハウスへ。6時30分から昨日の続きの作業を開始。暑くて水分補給しないと熱中症になりそうな感じがする。



水の飲みすぎで、昼食は少量のみ。15時過ぎに作業終了。その後、石巻の景観ポイント、日和山公園に行く。眼下に石巻市内を望む。4月に同じ所から見た記憶と比較すると瓦礫の山が殆ど無くなり、空虚な荒野が拡大したように感じられる。旧市街を通るが瓦礫の山は無く、仮設の商店も一部見られるが復興までにはまだまだ時間が掛かりそうだ。

ふたごの湯で汗を流し、スーパーで買い物をして改善センターに18時に戻る。夕食を摂っていたら、岡さんがワラビの煮物、茹アスパラガスなどの差し入れ、一緒に食事をしながら歓談。岡さんのようなリーダーシップのあるコーディネーターが得られなければ、このようなボランティア活動が実現しなかったと心から感謝し、10時就寝。

6月14日（火）

4時起床。荷物を整理してパッキング。5時前に朝食。

泊めて頂いた改善センターを掃除機、箒をかける。車に全ての荷物を積み込み、水沼集落奥の岡さんのアスパラガスの畑を見て、岡さんに別れの挨拶をして出発。亀山さんのハウスで最後の作業を6時20分から開始。朝からショボ



ショボしていた雨が激しく降りだす。ハウス内のあちこちで破れたビニール屋根か水漏れ。雨水を含んだヘドロは重く腰に負担が掛かる。11時過ぎにやっと担当したハウスの全ての作業終了し、ホッとすると共に「ヤッタ!!!」と思う。

全ての作業用具を水道が出ないので、井戸水を汲み上げ泥を落して、完了。持参の道具類を積み込み、ふたごの湯で汗を流し昼食を摂りに市中へ。B級グルメの石巻焼きソバを食すが、あまり美味しくない。14時に石巻を出発、交代で運転して帰路に着く。

6月15日（水）

往路を逆に走り、4時50分に京都駅八条口に到着。WAO 亀岡3人が降りた後、長岡京の自宅へ5時半着

本当に皆さん、ご苦労さまでした。

へとへとに疲れた日々だったが、爽やか達成感が残る。

まだまだ息の長い支援が必要でしょう。国会議員も長靴を履いて、一日でもヘドロ出しの作業をすれば、もう少し真ともな考えが出来るのではないのでしょうか？

がんばろう・日本・東北・石巻